

常陸大宮市の外来植物

人間の諸活動によって外国から日本に入ってきて、いつの間にか野生化する外来植物が急速に増えています。

また、農業用の緑肥作物や牧草として導入されたものや、園芸用に栽培されていたものが逸出して野生化しているものもあります。

本市でも、これまでの筆者らの調査で約220種あまりの外来植物が確認されています。

平成17年には、これらの外来植物のうち特に生態系や自然環境などに影響を及ぼしかねない生物が、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」で特定外来生物として指定されています。この法律によって、特定外来植物は、栽培、運搬、野外に放棄することなどの行為が原則禁止されています。

本市ではオオキンケイギク、オオハンゴンソウ、アレチウリ、オオカワジシャの4種が確認されています。今回は、これらの特定外来植物のうち、オオハンゴンソウとアレチウリを紹介します。なお、オオキンケイギクは広報常陸大宮7月第178号に掲載されています。

オオハンゴンソウ (キク科)



北アメリカ原産の多年草です。湿った草原や河川敷などに大きな群落を作ります。高さ1~3mにもなります。夏から秋にかけて、枝先に直径6~10cmの黄色い花をつけます。本市でも平成29年8月に山方地域で、今年7月に美和地域で生育が確認されました。その後、両地域とも駆除されました。今後も侵入が予想され注意が必要です。



藤田 弘道 氏
自然部会専門調査員 (茨城生物の会)

アレチウリ (ウリ科)



北アメリカ原産で、河川敷や林の縁などに大群落を作るつる性の1年草です。何度も枝分れを繰り返して、長さ数mにもなります。茎には粗い毛が密生し、葉も両面が著しくざらつきます。夏から秋にかけて雄花と雌花を別々につけます。果実は柔らかい刺と毛が密生した細長い卵形です。数個が集まってつき、こんぺい糖のように見えます。本市でも増えつつあります。

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111(内線344)